

I はじめに

- (1) 長期構想の背景と目的
- (2) 長期構想の位置付けと目標年次
- (3) 長期構想策定の経緯

II 東京港のあゆみと役割

【東京港のあゆみ】

- (1) 港湾整備 (2) 都市開発 (3) 環境整備

【東京港の役割】

(1) 物流 首都圏の生活と産業を支える東京港 ・東京港の背後圏 ・東京港の経済効果	(2) 防災・維持管理 都民の生命と財産を守る東京港 ・災害の脅威から守る ・災害時の物流活動の維持
(3) 環境 人々の憩いの場、貴重な生物生息環境	(4) 観光・水辺のまちづくり 豊富な観光資源を有する首都の玄関口

III 東京港を取り巻く情勢変化と展望

【基本フレーム】

- ・人口減少、労働力不足 ・アジア諸国の経済成長と生産拠点の南下
- ・AI、IoT等の技術革新 ・脱炭素社会に向けた取組

【物流】

- ・コンテナ船の大型化
- ・サイバーポートなど港湾のDX
- ・モーダルシフトの進展

【防災・維持管理】

- ・頻発化激甚化する自然災害
 （地震・高潮・暴風）
- ・港湾施設等の老朽化

【環境】

- ・カーボンニュートラルポートの取組
- ・ブルーカーボンの取組

【観光・水辺のまちづくり】

- ・クルーズ市場の拡大
- ・東京2020大会のレガシー

IV 東京港の基本理念と目指すべき将来像

【理念】

～進化し続ける未来創造港湾 東京港～

【目指すべき将来像】

- (1) 物流 (2) 防災・維持管理 (3) 環境 (4) 観光・水辺のまちづくり

V 東京港の施策の方向性

1 【物流】

- (1) ユーザーに選ばれる国際コンテナ輸送拠点の形成
- (2) 国内物流を支える内貿貨物輸送拠点の形成
- (3) 多様な貨物を扱う在来ふ頭機能の確保
- (4) 新たなニーズに対応するふ頭の利活用
- (5) 快適で働きやすい環境の実現

2 【防災・維持管理】

- (1) 物流活動を維持する強靱な港の構築
- (2) 都民の生命と財産を守るハード・ソフト対策の推進
- (3) 将来にわたり港湾機能を維持する適切な施設管理

3 【環境】

- (1) 脱炭素社会の実現に向けたカーボンニュートラルポートの形成
- (2) 都民に親しまれる水と緑のネットワークの拡充
- (3) 豊かな海域環境・生物生息環境の創出
- (4) 持続可能な循環型社会への貢献

4 【観光・水辺のまちづくり】

- (1) クルーズ・舟運（水上交通）の更なる活性化
- (2) 東京2020大会レガシーを活かしたまちづくり
- (3) 水辺の魅力や観光資源を活用したにぎわいの創出
- (4) 臨海部における最先端技術の活用

5 【ゾーニング】

VI 長期構想の実現に向けて

- (1) 国内・世界の港湾、関係機関等との連携
- (2) 検証の仕組み（PDCA）
- (3) その他

(1) ユーザーに選ばれる国際コンテナ輸送拠点の形成

■ 最先端技術を活用した競争力の高い港の実現

○ コンテナターミナルの機能強化

- ・大型船に対応した新規ふ頭の整備（既定計画の変更を含む）
- ・既存ふ頭の再編整備（岸壁等の増深、連続バース化、ヤード拡張）
- ・ガントリークレーンの大型化（揚程高、ブーム長）
- ・自動運航船の寄港を可能とする施設の整備

○ 最先端技術を活用した効率的なコンテナターミナルの実現

- ・ヤードの高度利用化、ヤードレイアウトの見直し（ターミナルの処理能力の向上）
- ・「ヒトを支援するA Iターミナル」の実現
（センサーの設置、クレーンの高度化、A Iを活用したコンテナプランニング、事前荷繰りなど）
- ・サイバーポート（港湾関連データ連携基盤）の導入（I C T技術を活用した搬出入情報の処理）
- ・港湾のデジタルツイン化による貨物流動の予測、最適ソリューションの提示
- ・貨物のトレーサビリティ（サプライチェーンの情報化・見える化）の促進
- ・共同ゲートの整備・運用、車両待機場の整備
- ・各ふ頭におけるターミナルオペレーションシステムの一体運用（入出力データの共有）
- ・ヤードクレーンの規格統一化・相互融通（繁忙期・遅延時対応）
- ・各ふ頭におけるバース・クレーンの相互融通（繁忙期・遅延時対応）
- ・搬出入事前予約制などの実施
- ・ゲートオープン時間の拡大

○ 港湾関連施設間におけるコンテナ輸送の効率化

- ・バンプール・シャーシプールのターミナル周辺への集約化
- ・バンプールとヤードのシームレスな接続、ターミナル間のシームレスな接続（道路の専用レーン化、A G Vの導入）
- ・シャーシの共同利用
- ・インランドデポと外貿ふ頭間におけるシャトル便の運行（自動運転、隊列走行、共同輸送）
- ・インランドデポと鉄道貨物駅との連携（共同輸送）
- ・新たな土地造成や土地交換による用地の創出
- ・内航輸送、はしけ輸送（湾内輸送、河川輸送）、鉄道輸送などの利用促進

(1) ユーザーに選ばれる国際コンテナ輸送拠点の形成

■ 集貨・創貨

○ 国内貨物の取込み

- ・内航船等のフィーダー専用ふ頭の整備
- ・フィーダー専用ふ頭、内貿ふ頭、鉄道貨物ターミナル等と外貿ふ頭とのシームレスな接続(道路の専用レーン化等)
- ・港湾間の連携による国際フィーダー航路等の就航支援
- ・内航航路ネットワークを活用した農林水産物・食品の集貨促進
- ・新たな道路ネットワークの構築（広域道路ネットワーク、臨海部へのアクセス、港内道路）
- ・重要物流道路の拡大、海上コンテナ車両が特別の許可なく通行できる環境の整備
- ・海貨を取扱う倉庫の誘致、倉庫の建替え促進
- ・海貨の高付加価値化に資する高機能倉庫の誘致
- ・冷蔵貨物の取扱量増加に対応したリーファープラグの増設、共同利用
- ・背後圏の荷主、船社へのポートセールス
- ・減免等のインセンティブ制度の拡充

○ 海外からの北米トランシップ貨物の取込み

- ・東南アジア貨物から北米向けのトランシップ貨物等の取り込みに向けた荷主・船社へのポートセールス
- ・東京港利用のインセンティブ制度の拡充

(2) 国内物流を支える内貿貨物輸送拠点の形成

■ 施設の機能強化

○ ターミナル施設等の機能強化

- ・ユニットロードターミナルの新規ふ頭整備、ヤード拡張
- ・野積場・上屋の多層利用による機能強化
- ・ターミナル外のストックヤードの活用
- ・モーダルシフト等に対応できる施設能力の確保

■ 荷役の効率化

○ 最先端技術の活用・荷役の効率化

- ・サイバポートの導入（港湾手続きの電子化）
- ・シャーシ等の位置情報共有による、搬出入作業の効率化
- ・自動運転トレーラによる効率化
- ・RORO船・フェリー等の自動離着岸装置の導入
- ・貨物のトレーサビリティ（サプライチェーンの情報化・見える化）の促進

■ 内貿・外貿ふ頭間の連携の強化

○ シームレスかつ安定的な輸送の実現

- ・外貿コンテナふ頭・ロジスティクス施設との円滑な接続（道路の専用レーン化、自動運転の導入、貨物の詰替え円滑化）
- ・農林水産品・食品等の輸出促進に向けた新たな貨物集貨の促進
- ・内貿・外貿間の連続的なコールドチェーンの確保（冷凍冷蔵倉庫・電源の確保）

(3) 多様な貨物を扱う在来ふ頭機能の確保

■ 在来貨物の取扱機能の確保

○ 既存機能の維持

- ・貨物を確実かつ円滑に取り扱うため、既存機能の維持
- ・船舶の大型化に対応した施設整備の推進

○ 利用転換を含めたふ頭のあり方検討

- ・取扱貨物量や岸壁利用頻度の低下したふ頭等について、集約化や利用転換（新たなニーズへの対応）の検討

(4) 新たなニーズに対応するふ頭の利活用

■ 水域の利活用

○ 東京港を支える機能の確保

- ・東京港を支える様々な船舶の係留施設を適切に確保する
- ・小型船だまりや物資補給岸壁周辺の土地利用の変化や、船舶の次世代エネルギーへの転換、自動運航船などの技術進展の動向を踏まえ、機能や配置のあり方を検討していく

○ 低未利用水域の活用

- ・係留施設背後地の土地利用や取扱貨物量の変化、マリーナの係留需要などの動向を踏まえ、水域の活用を検討していく

(5) 快適で働きやすい環境の実現

■ 労働環境の改善

○ 最先端技術による労働環境の改善

- ・「ヒトを支援するA Iターミナル」の実現
- ・DXの推進により、安全で快適な生産性の高い職場環境の実現
- ・自動運航船、自動離着岸装置、自動運転トレーラ等による効率化の実現

■ 誰もが働きやすい施設の整備

○ 福利厚生施設等の充実

- ・みなとの駅（仮称）の整備（コンテナ車両、大型トレーラ等が駐車可能、コンビニ・食堂・休憩・交流施設）
- ・トイレや休憩施設等の充実
- ・保育所・託児所の整備
- ・ユニバーサルデザインの推進

○ 通勤手段の適切な確保

- ・交通手段の充実（路線・頻度・定時性の確保）
- ・自動運転等の最新交通手段の導入

(1) 物流活動を維持する強靱な港の構築

■ 地震・高潮・暴風対策

○ 災害に強い港の整備

- ・耐震強化岸壁、免震クレーンの整備を推進
(新規ふ頭の整備・既存ふ頭の再編整備に合わせた耐震化の推進、ふ頭計画に応じた配置の検討)
- ・橋りょうの耐震化、港内の無電柱化の推進
- ・ターミナル機能を維持する電力バックアップ機能の確保
- ・ふ頭の浸水・暴風対策の一層の強化
(コンテナの流出・飛散防止、クレーンの逸走防止、電気設備等の嵩上げ、荷役機械等の退避)
- ・暴風時における船舶の走錨・衝突等リスク低減策の強化、港湾BCP等に基づく的確な対応
- ・発災時における港湾間の連携による物流網のリダンダンシー確保
- ・ICT等を活用した水位情報や被災状況等の共有及び発信

■ 特定外来生物・感染症対策

○ 特定外来生物・感染症への防疫対策

- ・国が定めるガイドライン等に基づく、関係機関との連携による特定外来生物、新型感染症に対する水際対策の強化

(2) 都民の生命と財産を守るハード・ソフト対策の推進

■ 地震・高潮・暴風対策

- 災害に対する安全確保
 - ・ 海岸保全施設の耐震化・耐水化の推進
 - ・ 気候変動を踏まえた海岸保全施設の整備
 - ・ 潮位等の継続したモニタリングの実施
 - ・ ICT等を活用した水位情報や被災状況等の共有及び発信
 - ・ 防災船着場を活用した帰宅困難者等の輸送

(3) 将来にわたり港湾機能を維持する適切な施設管理

■ 施設の延命化対策

- 施設の維持管理
 - ・ ICT等の高度な技術を活用した施設の適切な予防保全
(港湾施設等にセンサーを設置するなど新たなモニタリング技術導入の検討)
 - ・ 橋りょう・トンネルの長寿命化対策の推進

■ インフラDX

- ICT施工の導入
 - ・ ICTを活用した港湾工事の効率化

(1) 脱炭素社会の実現に向けたカーボンニュートラルレポートの形成

■ カーボンニュートラルレポートの実現

○ 環境に配慮した船舶の受入

- ・次世代エネルギー燃料船舶の普及促進（タグボート等の船舶を含む）
- ・陸上電源設備やLNGバンカリングなど、船舶への次世代エネルギー（カーボンニュートラルな電力）供給設備等の整備
- ・水素等の次世代エネルギー供給拠点の検討

○ 環境に配慮したターミナルの実現

- ・ターミナル内施設における次世代エネルギーの利活用の拡大
- ・港湾荷役機械や構内トレーラーへの燃料電池の導入
- ・トレーラー等向け水素ステーションの整備
- ・施設の上部を利用した太陽光発電
- ・SDGs（持続可能な開発目標）の取組やESGへの対応推進

○ モーダルシフト

- ・内航輸送、はしけ輸送（湾内輸送、河川輸送）、鉄道輸送など環境にやさしい輸送モードの利用促進

(2) 都民に親しまれる水と緑のネットワークの拡充

■ 水と緑のネットワークの拡充

○ まちづくりや公園整備と連携した水と緑のネットワークの拡充

- ・多様なニーズに対応した公園整備・運営の推進
- ・水と緑のネットワークの「質」の向上
- ・海上公園と隣接した土地利用と連携し、連続性を確保した公園整備、水辺空間の整備
- ・都民や企業、団体、地元自治体と連携した、海上公園の魅力向上
- ・水辺に顔を向けたまちづくりや水辺空間を楽しめるまちづくりの推進、水辺周辺へのにぎわい創出
- ・東京港の魅力を高める景観づくり、みなとの景観を体感できる視点場づくり

(3) 豊かな海域環境・生物生息環境の創出

■ 海域環境・生物生息環境の創出・保全

○ 海域環境・生物生息環境の創出・保全の推進

- ・水生生物や水鳥など、貴重な生き物の生息地である干潟等の保全の推進
- ・海上公園等を活用した環境学習の推進、里海文化の継承
- ・水質改善に向けた汚泥しゅんせつ・覆砂の推進
- ・水質や生物等のモニタリングの実施
- ・藻場の創出・干潟の拡充によるブルーカーボンを活用した脱炭素化の推進

(4) 持続可能な循環型社会への貢献

■ 持続可能な循環型社会の実現

○ 既存機能の確保

- ・新海面処分場の整備、延命化対策の実施
- ・循環資源である静脈貨物の取扱機能の維持

(1) クルーズ・舟運（水上交通）等の更なる活性化

■ ポストコロナを見据えた客船誘致等の実施

○ クルーズ客船の誘致

- ・感染症対策の徹底、クルーズの安全・安心のPR、環境変化を踏まえた誘致戦略の検討

■ クルーズ客船受入機能の強化

○ クルーズ客船受入機能の強化

- ・大型客船の円滑な受入れが可能な2バース体制の確保
- ・東京国際クルーズターミナルの稼働状況を踏まえたターミナル機能拡充の検討
- ・環境に配慮した船舶に対応した陸電施設などの整備や次世代エネルギー供給体制等の検討

■ 多様な主体と連携した舟運（水上交通）の活性化

○ クルーズとの連携や官民連携による活性化

- ・東京国際クルーズターミナルの活用や、官民連携した船着場の整備推進
- ・航路の充実に向けて、再開発が進むエリアを中心に、多様な主体と連携したにぎわいの創出等による舟運需要の喚起、水辺の魅力・利便性の向上

■ スーパーヨット等の受入検討

○ スーパーヨット等の受入検討

- ・スーパーヨット等の外航船の係留を想定した、水際施設や入出国手続き、給排水・電源供給施設などの検討
- ・東京国際クルーズふ頭や晴海ふ頭のほか、物資補給岸壁等でのスポット受入の検討

(2) 東京2020大会レガシーを活かしたまちづくり

■ 東京2020大会レガシーを活かした地域の発展

○ 東京2020大会レガシーを活かしたまちづくりの推進

- ・スポーツを核とした新たな価値や魅力を創造する持続可能なまちづくりの推進
- ・周辺のまちづくりと連携するとともに、民間活力を導入した魅力的な公園整備の推進
- ・バリアフリーなど誰もが暮らしやすいまちづくりの推進

(3) 水辺の魅力や観光資源を活用したにぎわいの創出

■ まちづくりや公園整備と連携した水辺の魅力向上

○ まちづくりや公園整備と連携した水辺の魅力向上

- ・ 多様なニーズに対応した公園整備・運営の推進
- ・ 海上公園と隣接した土地利用と連携し、連続性を確保した公園整備、水辺空間の整備
- ・ 都民や企業、団体、地元自治体と連携した、海上公園の魅力向上
- ・ 水辺に顔を向けたまちづくりや水辺空間を楽しめるまちづくりの推進、水辺周辺へのにぎわい創出
- ・ 運河のにぎわい・利活用の推進
- ・ 東京港の魅力を高める景観づくり、みなとの景観を体感できる視点場づくり
- ・ 土木遺構等の維持保全による、新旧が調和した港の良好な景観の創出、地域資源としての有効活用
- ・ 交通手段の充実（BRT、舟運、小型モビリティ等）

(4) 臨海部における最先端技術の活用

■ 臨海部における最先端技術の活用

○ 臨海部における最先端技術の活用

- ・ 自動運転技術、自動運航船、次世代エネルギー燃料船など最先端技術の活用